

おとなのワクチン

成人にも大切なワクチンがたくさんあります！

- 命に関わる感染症 (例：肺炎球菌・破傷風)
- 罹患後、長期に渡り症状が続く病気 (例：帯状疱疹後神経痛)
- 合併症を来す感染症 (例：おたふくかぜ(卵巣炎・精巣炎等))
- 生まれてくる赤ちゃんへの脅威となる感染症(例：風疹・百日咳)

ご自身やご家族の将来のためにおすすめのワクチンをご紹介します

A. 中高年の方

1. 肺炎球菌

- 65歳以上のすべての方におすすめ
- 肺炎は日本人の死亡原因第3位
- 初めての方に限り補助金あり(65/70/75/80/85/90歳の方)
- 受け方：ニューモバックスを1回接種 (2回目以降は個別相談)

2. 帯状疱疹

- 50歳以上のすべての方におすすめ
- 昔かかった水痘(水ぼうそう)が体に潜んで、帯状疱疹を起こします
- 帯状疱疹の後遺症である神経痛に何年も悩む方が少なくありません
- 受け方：水痘ワクチンを1回のみ接種(生ワクチンの場合)

B. 妊活中・妊娠中のご家族がいる方

1. 麻疹・風疹

- 風疹は妊娠中にかかると胎児に先天性風疹症候群(難聴・心奇形等)
- 麻疹は成人で重症化しやすく、妊婦さんは流早産・死産のリスク
- 妊娠してからでは受けられません
- 受け方：MRワクチンを生涯で2回接種

2. 水痘 (水ぼうそう)

- 妊娠中にかかると胎児に先天性水痘症候群(低出生体重・脳萎縮等)
- 水痘は空気感染なので、感染者のそばにいただけで感染します
- 妊娠してからでは受けられません
- 受け方：水痘ワクチンを生涯で2回接種

3. おたふく

- 成人がかかると、卵巣炎・精巣炎・難聴などの合併症あり
- 妊娠早期にかかると流産のリスク
- 妊娠してからでは受けられません
- 受け方：ムンプスワクチンを生涯で2回接種

4. 百日咳

- 2カ月未満の赤ちゃんが百日咳にかかると、命にかかります
- 原則として、妊娠している女性は受けられません(※)
- 妊娠を希望される女性、妊婦さんのご家族、生まれてくる赤ちゃんのおじいちゃん、おばあちゃんにおすすめ
- 受け方：DPTワクチンをこれまでの接種状況に応じて1~3回接種

※日本で認可されているワクチン(DPT=DTaP)は妊娠中の安全性が確立されていないため。医療機関によっては、妊娠中も受けられる海外のワクチン(TDaP)を採用しているところもあります。

妊娠をご予定されている女性には早めのワクチンをおすすめします！
麻疹・風疹・水痘・おたふくワクチンは接種後、2カ月の避妊が必要です

C. その他

屋外・さびた金属でケガをする可能性が高い方
(建築現場・工場勤務の方など)

1. 破傷風

- 土や錆びた金属から感染
- 発症すると重度のけいれんを起こし、命に関わります
- 受け方：DPTワクチンをこれまでの接種状況に応じて1~3回接種

「今まで受けているか分からない…」、「自分は受けた方が良いのか分からない…」という方は、お気軽にご相談にいらしてください。お持ちの方は、ご自身の母子手帳や予防接種記録をご持参ください。

予防接種のご予約はお電話でも承ります。

鹿浜診療所 03 (3912) 8491

